



小学生の部

最優秀賞 「いじめについて思うこと」
 優秀賞 「大切な自然もほんの少しの心がけから」
 優良賞 「宇宙から見た地球」
 奨励賞 「ゲームプランナーへの階段」
 奨励賞 「わたしの家族」
 奨励賞 「ぼくの自然に対する思い」
 奨励賞 「吹奏楽部の部長になって」

川湯小6年 濱岡 日菜
 和琴小6年 星川 海斗
 弟子屈小6年 西郷 綾夏
 昭栄小6年 更科 宏記
 美留和小6年 阿部 奈央子
 奥春別小6年 岡林 輝
 弟子屈小6年 和田 七海

出場者の皆さんと審査結果(敬称略)

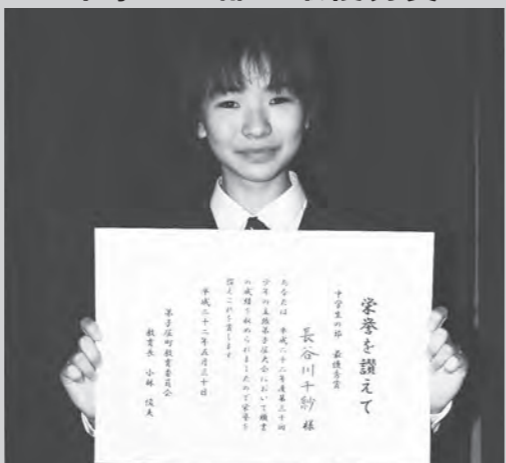
中学生の部

最優秀賞 「川湯PR大作戦」 川湯中3年 長谷川 千紗
 優秀賞 「ライバルと歩む」 川湯中2年 池上 温人
 優良賞 「偏見のない世の中に」 弟子屈中3年 高橋 由芽
 奨励賞 「過ごしやすい生活」 弟子屈中1年 川本 友華
 奨励賞 「目標にたどりつく努力」 川湯中2年 今井 玄
 奨励賞 「僕らがやらなきゃならないこと」 川湯中1年 松田 幹哉
 奨励賞 「僕を変えた料理」 弟子屈中1年 山本 竹人
 奨励賞 「新しい仲間と」 川湯中1年 海老名 美生
 奨励賞 「テニスを通して変わりたいこと」 弟子屈中2年 岡田 春弥
 奨励賞 「この世で一番大切なもの」 弟子屈中2年 橋村 明斗
 奨励賞 「諦めない気持ち」 弟子屈中3年 原田 勝成

「少年の主張」弟子屈大会

平成22年度第30回「少年の主張」弟子屈大会が5月30日に弟子屈町社会老人福祉センターで開催され、町内各小中学校の児童7人と生徒11人が、目で見て感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。
最優秀賞には小学生の部で濱岡 日菜 さん(川湯小学校6年)、中学生の部で長谷川 千紗 さん(川湯中学校3年)が、それぞれ選ばれました。
 中学生の部最優秀賞の長谷川さんは7月27日に釧路市生涯学習センターで開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

中学生の部 最優秀賞



川湯PR大作戦
 川湯中学校3年
 長谷川 千紗さん

私たち川湯中学校三年生は、修学旅行中に札幌駅で川湯のPR活動をしてきました。これは私たちを育ててくれた川湯のPRをすることで、川湯に観光客を招き、恩返しをする意味を持っています。初めはとても不安でしたが、実際大勢の人たちの前でPRをするなんてちょっと…という冷めた気持ちで取り組みを始めました。
 PRの方法の一つとして巨大ポスターを制作しました。そんなとき、ホテルやエコミュージアムセンターの方からは非協力的というところで、三名の方々が学校まで足を運んでくれました。川湯の魅力について熱く語れる人がいる、そして私たちの活動に協力してくれる人たちがいるということ、少しずつ前向きな気持ちになることができました。
 よくよく話を聞くと、ずっと川湯に住んでいながら、知らなかったり、知ろうとしなかったことがわかりました。私たち

が普段あまり考えずに浸かっている川湯温泉は、様々な病気に効くなど、良いことづくめだったので。また、自分以外の人が担当しているところを見ても、知らなかったスポットがあり、都会の人にはぜひ、体験してもらいたいと強く思いました。
 PR活動の時に呼び掛ける原稿も、それぞれ少しずつ負担を決め、短い文章の中にも川湯の魅力をよく詰め込み、札幌の人たちを引きつけようとする工夫をしました。こうなると、嫌々始めた活動でしたが、なんだか少し自信ができてきて、成功させたいという意欲も出てきました。
 PR当日には、最後の準備として、会場設営とお客さん呼びよせるためにピラ配りをしました。もらってくるれない人がいても、めげずに配りました。そうした準備の時に、興味を示してくれた人たちが、パンフレットをもらいに来てくれたり、中には川湯のことを既に知っていて、私たちのことを応援してくれた人もいました。発表が始まる前からもう沢山の人が集まってきました。
 川湯での時間の過ごし方を、ツアー風に説明したため、わかりやすいと評判で、うなずいてくれる人がとても多く、見る見るうちに人だかりが増えました。予想よりもはるかに多い人たちが駅の

とはできなかったのでしょうか。でもそれは、いじめを受けたことのない私だから言えるのかもしれない。「いじめ」に立ち向かう勇氣はとても大切なものです。しかし、勇氣を出せずに、苦しんでいる人は、そう少なくはないでしょう。いじめにあったことのない人が解決法を出すのは、簡単です。けれど、実際にいじめられている人が、それを実行するということは、非常に勇氣がいることなのだと思えます。
 いじめられている人を守るために私は、自分にできる行動をとりたいです。例えば、学校でのこと。私は「いじめ」を見かけたなら、すぐにやめさせます。また、児童会の活動で、全校生徒がよく通る廊下や、注目されやすい所などに、呼びかけのポスターをはったり、いじめられている人を助けるためのアンケート用紙などを設置したりしたいです。全校生徒や先生などが集まる朝会などで、いじめをしないように呼びかける事もいい案だと思います。
 今回私は、いじめを受けている人の気持ちについて、深く考えることができました。そして、友達の大切さを強く感じました。私は、いじめを見かけたら、見て見ぬふりということはせずに、勇氣を出して、立ち向かっていきたいと思えます。

小学生の部 最優秀賞



いじめについて思うこと
 川湯小学校6年
 濱岡 日菜さん

みなさんは「いじめ」という行為を知っていますか。知らない人はいないと思います。私のクラスでは「いじめ」という行為はありませんでした。でも、ある日、自分のクラス以外で「いじめ」が起きていることを知りました。「いじめ」については、テレビやネットで聞いたことはありましたが、身近なところでも起こることを知って、私は、少しびびりしました。インターネットで調べると、いじめの体験談がたくさん出てきます。その中で一番多かったのは「言葉の暴力」です。これは、バカ、アホ、マヌケなどの悪口、体のことをせめること、陰口、ウワサなどの事をいいます。
 次に多かったのは「力の暴力」です。これは、体に傷をあたえたりする、とても危険な行為です。
 このような「いじめ」の行為を受けてしまった人は、トラウマになってしまった

り、不登校になってしまったたり、家に引きこもってしまう人が多かったです。中には、自ら命を捨ててしまったり人もいます。自分の感情で、悪くない人の事を傷つけることは、とてもやっつけられないことだと思います。いじめている人は、自分で恥ずかしいと思わないのでしょうか。いじめていて、何が楽しいのでしょうか。
 先日、母から、昔あったことを教えてもらいました。中学二・三年生のころに、母はいじめにあったそうです。母の中学校は人数が多く、クラスは九クラスほどあったそうです。母相手に各クラスの何人かが集まり、集団で母を囲み、悪口などを言われたそうです。
 私がいじめを受けたとき、私が、理想的だと思っの、立ち向かうことです。いじめにあい、みずから命を捨ててしまったり、母もいじめに立ち向かうことができなかったのでしょうか。いじめに立ち向かうこ



大会当日の審査の様子

中を歩き、そして立ち止まって私たちを見て、体験したことのない緊張感がありました。いよいよPR活動が始まりました。私は集まった人たちが全員に声が届くよう、思い切り声をあげました。目の前にいるたくさんの人々が私たちを見て、みんなの顔もとても緊張していました。さっきまでとても緊張していたはずが、その時にはもう必死でした。あつという間に原稿を読み終わってしまいました。「川湯に来てくださーい、よろしくお願ひします。」発表が終わると一斉に人が集まってきて、そばもタオルも一瞬のうちに配布しつくしてしまいました。残ったパンフレットも、歩いてい